

# 御神幸

二年に一度のお神輿行列  
福岡市無形民俗文化財

「放生会」の御神幸(お神輿行列)は福岡市の無形民俗文化財に指定されており、2年に1度挙行される。今年はその年に当り、参加する氏子は春ごろから準備怠りない。行列は三基のお神輿を中心に白丁姿の約500人が奉仕。お宮と氏子がしっかりと結ばれている神事だ。

12日が『御下り(渡御)』で、午後6時にお宮を出発。旧街道の馬出、九大病院前を経て、千代三交差点で左折。妙見と進み、吉塚本町でUターン。妙見から東に向かい、JR吉塚駅前、御所内、宮小路、帝大前、箱崎本町、網屋立筋などを通って午後10時ごろ頓宮着。4時間近い大行列だ。

『御上り(還御)』は1日置いて、14日午後7時から、『御下り』のコースを逆に進み、帝大前、箱崎本町から宮崎宮へ。こちらは約1時間と短いが、見物客を喜ばせるのが“走り込み”と呼ばれる氏子の行動。おごそかに行列に加わっていた氏子たちが、最後の百数十メートルを、それぞれの道具を持ったまま、力一杯走るのである。いつの頃から始まったかは定かではないが、地域活力の象徴でもあるようだ。

3基の神輿には、「一ノ戸・二ノ戸・三ノ戸」という古い呼称が用いられている。今年の『御下り』は「一ノ戸」が馬出・吉塚・東吉塚。「二ノ戸」が千代。「三ノ戸」が箱崎・筥松。『御上り』では「一ノ戸」が箱崎・筥松。「二ノ戸」が馬出・吉塚・東吉塚。「三ノ戸」が千代の各校区の氏子が奉仕する。

この順序は毎回変わるが、宮崎宮によると、『御上り』の「一ノ戸」は毎回、箱崎・筥松が供奉。その代わり『御下り』では、「一ノ戸」を務めることはないという。

行列での氏子は役目に応じて錦旗、清道旗、火王水王、ハッ旗、絹傘などを持って『お神輿』を守りながら歩く。巡路に面した各家は門提灯を灯し、氏子は神輿を拝み、賽銭箱に賽銭を投げられると奉仕する子どもが賽銭箱を揺らす光景は微笑ましくもある。

福岡市内には、これほど豪華な時代絵巻はなく、放生会参拝のスケジュールに織り込むと、宮崎宮がより身近に感じられ、より楽しいお祭りが楽しめることであろう。



浜風そよぐ  
神輿行列  
故事成句



博多サンヒルズホテルの人気店紹介

いけす料理が安い!うまい!  
ヤリイカや玄海の地魚が泳いでいます  
※グループ予約: 3,500円~(飲み放題付)

特典!「放生会」期間中(9月12日から18日)生ビール1杯300円 ※但し、この冊子ご持参の方に限りです

**博多サンヒルズホテル** 無料通話 0800-100-1176  
福岡市博多区吉塚本町13番55号 JR吉塚駅より200m 西鉄バス吉塚営業所となり